

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2002年 9月30日
Date of Application:

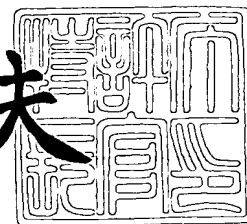
出願番号 特願2002-286002
Application Number:
[ST. 10/C]: [JP 2002-286002]

出願人 セイコーエプソン株式会社
Applicant(s):

2003年 8月 6日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



Atty. Docket No. ITECP002

出証番号 出証特2003-3063167

【書類名】 特許願

【整理番号】 PNSEA139

【提出日】 平成14年 9月30日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 17/60

【発明者】

 【住所又は居所】 長野県松本市芳川村井町 1 0 5 9 番地 エプソンダイレクト株式会社内

 【氏名】 大島 康弘

【発明者】

 【住所又は居所】 長野県松本市芳川村井町 1 0 5 9 番地 エプソンダイレクト株式会社内

 【氏名】 関沢 隆夫

【発明者】

 【住所又は居所】 長野県松本市芳川村井町 1 0 5 9 番地 エプソンダイレクト株式会社内

 【氏名】 洪沢 泰夫

【発明者】

 【住所又は居所】 長野県松本市芳川村井町 1 0 5 9 番地 エプソンダイレクト株式会社内

 【氏名】 相渡 良潔

【特許出願人】

 【識別番号】 000002369

 【氏名又は名称】 セイコーエプソン株式会社

【代理人】

 【識別番号】 110000017

 【氏名又は名称】 特許業務法人アイテック国際特許事務所

 【代表者】 伊神 広行

 【電話番号】 052-218-3226

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 129482

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0105216

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 中古品見積システム、その方法及びそのプログラム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ユーザから中古品を引き取る際の見積価格をユーザコンピュータに提示する中古品見積システムであって、

前記ユーザコンピュータから前記中古品の見積要求と前記中古品の見積に必要な見積必要情報とを受信したとき、前記中古品の仮見積価格を前記見積必要情報に基づいて設定する仮見積価格設定手段と、

前記仮見積価格設定手段によって設定された前記仮見積価格に基づいて前記中古品の査定が必要か否かを判定する査定要否判定手段と、

前記査定要否判定手段によって前記中古品の査定が不要と判定されたときには前記仮見積価格に応じて決定される幅を持たない金額を前記中古品を査定せずに引き取る確定価格とし該確定価格を前記中古品の見積価格として設定する見積価格設定手段と、

前記見積価格設定手段によって設定された前記見積価格を含む見積情報を前記ユーザコンピュータに送信する見積情報送信手段と

を備えた中古品見積システム。

【請求項 2】 請求項 1 に記載の中古品見積システムであって、

前記査定要否判定手段は、前記仮見積価格が予め定められた査定要否判定値を下回るときには前記中古品の査定が不要と判定する

中古品見積システム。

【請求項 3】 請求項 1 又は 2 に記載の中古品見積システムであって、

前記見積価格設定手段は、前記査定要否判定手段によって前記中古品の査定が不要と判定されたときには、前記仮見積価格の多寡に応じて前記確定価格を前記仮見積価格に応じた幅を持たない金額とするか前記仮見積価格にかからわず予め定められた一定額とする

中古品見積システム。

【請求項 4】 請求項 3 に記載の中古品見積システムであって、

前記見積価格設定手段は、前記査定要否判定手段によって前記中古品の査定が

不要と判定されたときには前記仮見積価格と予め定められた多寡判定値とを比較し、前記仮見積価格が前記多寡判定値を上回るときには前記確定価格を前記幅を持たない金額とし前記仮見積価格が前記多寡判定値を下回るときには前記確定価格を前記一定額とする

中古品見積システム。

【請求項 5】 請求項 1～4 のいずれかに記載の中古品見積システムであって、

前記見積価格設定手段は、前記査定要否判定手段によって前記中古品の査定が必要と判定されたときには前記中古品を査定することを前提として前記仮見積価格に応じた幅を持った金額として前記中古品の見積価格を設定する

中古品見積システム。

【請求項 6】 請求項 1～5 のいずれかに記載の中古品見積システムであって、

前記仮見積価格設定手段によって設定された前記仮見積価格に基づいて前記中古品を引き取る価値があるか否かを判定する引取要否判定手段

を備え、

前記見積情報送信手段は、前記引取要否判定手段によって前記中古品を引き取る価値がないと判定されたときには前記中古品を引き取ることができない旨を含む見積情報を前記ユーザコンピュータに送信する

中古品見積システム。

【請求項 7】 請求項 1～5 のいずれかに記載の中古品見積システムであって、

前記仮見積価格設定手段は、前記ユーザコンピュータから前記中古品の見積要求と前記中古品の見積に必要な見積必要情報とを受信したとき、前記中古品の引取が商品の購入を伴う下取の場合の仮見積価格と前記中古品の引取が商品の購入を伴わない買取の場合の仮見積価格とを前記見積必要情報に基づいて設定し、

前記査定要否判定手段は、下取及び買取の各々について個別に前記中古品の査定の要否を判定し、

前記見積価格設定手段は、下取及び買取の各々について前記査定要否判定手段

によって前記中古品の査定が不要と判定されたときには前記確定価格を前記中古品の見積価格として設定し、

前記見積情報送信手段は、下取及び買取の両方の見積価格を含む見積情報を前記ユーザに送信する

中古品見積システム。

【請求項 8】 請求項 7 に記載の中古品見積システムであって、

少なくとも買取について前記仮見積価格設定手段によって設定された前記仮見積価格に基づいて前記中古品を引き取る価値があるか否かを判定する引取要否判定手段

を備え、

前記見積情報送信手段は、前記引取要否判定手段によって前記中古品を引き取る価値がないと判定されたときには前記中古品を引き取ることができない旨を含む見積情報を前記ユーザコンピュータに送信する

中古品見積システム。

【請求項 9】 ユーザから中古品を引き取る際の見積価格をユーザコンピュータに提示する中古品見積方法であって、

(a) サーバコンピュータが、前記ユーザコンピュータから前記中古品の見積要求と前記中古品の見積に必要な見積必要情報とを受信したとき、前記中古品の仮見積価格を前記見積必要情報に基づいて設定するステップと、

(b) 前記サーバコンピュータが、前記仮見積価格に基づいて前記中古品の査定が必要か否かを判定するステップと、

(c) 前記サーバコンピュータが、前記ステップ (b) で前記中古品の査定が不要と判定されたときには前記仮見積価格に応じて決定される幅を持たない金額を前記中古品を査定せずに引き取る確定価格とし該確定価格を前記中古品の見積価格として設定するステップと、

(d) 前記サーバコンピュータが、前記見積価格を含む見積情報を前記ユーザに送信するステップと

を含む中古品見積方法。

【請求項 10】 請求項 9 に記載の中古品見積方法の各ステップをサーバコ

ンピュータに実行させるためのプログラム。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ユーザから中古品を引き取る際の見積価格をユーザコンピュータに提示する中古品見積システム、その方法及びそのプログラムに関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

最近、ユーザから中古品を下取る際の見積価格をユーザに提示するシステムが提案されている。例えば、非特許文献 1 には、新たに製品を購入するユーザを対象としたコンピュータ下取サービスが開示されており、ここでは、ユーザが情報入力画面にて中古コンピュータの CPU、メモリ、HDD などの仕様に関する情報を入力したあと見積結果を要求すると、サーバ側からその中古コンピュータの見積金額が提示される。また、見積金額が一定額以上の場合には査定を行ったあと下取金額がユーザに振り込まれ、見積金額が一定額以下の場合には査定せず一律に一定額の割引券がユーザに配布される。

【 0 0 0 3 】

【非特許文献 1】

“デル PC 買取りサービス”、[online]、デルコンピュータ株式会社、[平成 14 年 9 月 27 日検索]、インターネット<URL:http://www.dell.com/jp/jp/dhs/topics/nsegtopic_kaitori.htm>

【 0 0 0 4 】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、見積金額が一定額以下の場合であっても実際には中古コンピュータごとに価値が異なることがある。例えば、見積金額が一定額に僅かに満たない中古コンピュータと見積金額がほとんどゼロに近い中古コンピュータとでは明らかに価値が相違する。にもかかわらず、一律に一定額にみなすとすればユーザに不満が残ることがある。

【 0 0 0 5 】

本発明は、このような課題に鑑みなされたものであり、中古品を査定せずに確定価格で引き取る場合であってもユーザに不満が残りにくい中古見積システム、その方法及びそのプログラムを提供することを目的とする。

【 0 0 0 6 】

【課題を解決するための手段及びその作用・効果】

上述の目的を達成するため、本発明は以下の手段を採用した。

【 0 0 0 7 】

本発明の第 1 は、ユーザから中古品を引き取る際の見積価格をユーザコンピュータに提示する中古品見積システムであって、

前記ユーザコンピュータから前記中古品の見積要求と前記中古品の見積に必要な見積必要情報とを受信したとき、前記中古品の仮見積価格を前記見積必要情報に基づいて設定する仮見積価格設定手段と、

前記仮見積価格設定手段によって設定された前記仮見積価格に基づいて前記中古品の査定が必要か否かを判定する査定要否判定手段と、

前記査定要否判定手段によって前記中古品の査定が不要と判定されたときには前記仮見積価格に応じて決定される幅を持たない金額を前記中古品を査定せずに引き取る確定価格とし該確定価格を前記中古品の見積価格として設定する見積価格設定手段と、

前記見積価格設定手段によって設定された前記見積価格を含む見積情報を前記ユーザコンピュータに送信する見積情報送信手段と

を備えたものである。

【 0 0 0 8 】

この中古品見積システムでは、ユーザコンピュータから中古品の見積要求とその中古品の見積に必要な見積必要情報とを受信したとき、その中古品の仮見積価格を見積必要情報に基づいて設定し、この仮見積価格に基づいて中古品の査定が必要か否かを判定する。そして、査定が不要と判定されたときには、仮見積価格に応じて決定される幅を持たない金額を中古品を査定せずに引き取る確定価格としその確定価格を中古品の見積価格とし、その見積価格を含む見積情報をユーザに送信する。このように、中古品を査定せずに確定価格で引き取る場合であって

も、その確定価格は仮見積価格に応じてつまり中古品の価値に応じて決定されるため、ユーザに不満が残りにくい。

【0 0 0 9】

なお、「中古品」とは、新品でない品物をいい、例えば新品を何度か使用した品物や新品を使用せず月日が経過した品物などをいう。また、仮見積価格設定手段は、中古品の見積要求と同時に見積必要情報を受信してもよいし、中古品の見積要求と見積必要情報とを別々に受信してもよい。

【0 0 1 0】

本発明の中古品見積システムにおいて、前記査定要否判定手段は、前記仮見積価格が予め定められた査定要否判定値を下回るときには前記中古品の査定が不要と判定してもよい。こうすれば、中古品の価値が低いものについてはシステム側の査定の手間を省くことができる。

【0 0 1 1】

本発明の中古品見積システムにおいて、前記見積価格設定手段は、前記査定要否判定手段によって前記中古品の査定が不要と判定されたときには前記仮見積価格の多寡に応じて前記確定価格を前記仮見積価格に応じて決定される幅を持たない金額とするか前記仮見積価格にかかわらず予め定められた一定額としてもよい。こうすれば、中古品を査定せずに確定価格で引き取る場合に、一律に中古品の価値にかかわらず確定価格を一定額にしてしまうのではなく、中古品の価値に応じて確定価格をその価値に応じた金額（幅を持たない金額）とするかその価値にかかわらず一定額とするため、ユーザに不満が残りにくい。このとき、前記見積価格設定手段は、前記査定要否判定手段によって前記中古品の査定が不要と判定されたときには前記仮見積価格と予め定められた多寡判定値とを比較し、前記仮見積価格が前記多寡判定値を上回るときには前記確定価格を前記幅を持たない金額とし前記仮見積価格が前記多寡判定値を下回るときには前記確定価格を前記一定額としてもよい。

【0 0 1 2】

本発明の中古品見積システムにおいて、前記見積価格設定手段は、前記査定要否判定手段によって前記中古品の査定が必要と判定されたときには前記中古品を

査定することを前提として前記仮見積価格に応じて決定される幅を持った金額に前記中古品の見積価格を設定してもよい。こうすれば、査定結果が悪ければ幅を持った金額の下限値が引取価格となり、査定結果が良ければ幅を持った金額の上限値が引取価格になるため、ユーザとしては中古品を引き取ってもらうか否かを判断しやすい。

【0013】

本発明の中古品見積システムは、前記仮見積価格設定手段によって設定された前記仮見積価格に基づいて前記中古品を引き取る価値があるか否かを判定する引取要否判定手段を備え、前記見積情報送信手段は、前記引取要否判定手段によって前記中古品を引き取る価値がないと判定されたときには前記中古品を引き取ることができない旨を含む見積情報を前記ユーザコンピュータに送信してもよい。こうすれば、システム側は価値のない中古品を引き取ることを拒否できる。

【0014】

本発明の中古品見積システムにおいて、前記仮見積価格設定手段は、前記ユーザコンピュータから前記中古品の見積要求と前記中古品の見積に必要な見積必要情報とを受信したとき、前記中古品の引取が商品の購入を伴う下取の場合の仮見積価格と前記中古品の引取が商品の購入を伴わない買取の場合の仮見積価格とを前記見積必要情報に基づいて設定し、前記査定要否判定手段は、下取及び買取の各々について個別に前記中古品の査定の要否を判定し、前記見積価格設定手段は、下取及び買取の各々について前記査定要否判定手段によって前記中古品の査定が不要と判定されたときには前記確定価格を前記中古品の見積価格として設定し、前記見積情報送信手段は、下取及び買取の両方を見積価格を含む見積情報を前記ユーザに送信してもよい。こうすれば、商品の購入を伴う下取の場合と商品の購入を伴わない買取の場合とで査定要否の判定基準を変えたり中古品の見積価格を変えたりすることができる。例えば、買取に比べて下取が有利になるようにすれば、ユーザは買取ではなく下取を選びやすくなり商品の購入を検討することが期待され、ひいてはユーザから中古品を引き取る機会を利用して商品購買意欲を喚び起こすことができる。

【0015】

このとき、少なくとも買取について前記仮見積価格設定手段によって設定された前記仮見積価格に基づいて前記中古品を引き取る価値があるか否かを判定する引取要否判定手段を備えていてもよく、前記見積情報送信手段は、前記引取要否判定手段によって前記中古品を引き取る価値がないと判定されたときには前記中古品を引き取ることができない旨を含む見積情報を前記ユーザコンピュータに送信してもよい。こうすれば、少なくとも買取の場合にはシステム側は価値のない中古品の引取を拒否できる。なお、下取の場合も同様にして価値のない中古品の引取を拒否してもよいが、下取は商品の購入を条件としているので、価値のない中古品を引き取ったとしても商品を購入してもらえるのであればシステム側として利点がある場合があり、その場合には引き取る価値のない中古品であっても引き取るようにしてもよい。

【0016】

本発明の第2は、ユーザから中古品を引き取る際の見積価格をユーザコンピュータに提示する中古品見積方法であって、

(a) サーバコンピュータが、前記ユーザコンピュータから前記中古品の見積要求と前記中古品の見積に必要な見積必要情報とを受信したとき、前記中古品の仮見積価格を前記見積必要情報に基づいて設定するステップと、

(b) 前記サーバコンピュータが、前記仮見積価格に基づいて前記中古品の査定が必要か否かを判定するステップと、

(c) 前記サーバコンピュータが、前記ステップ(b)で前記中古品の査定が不要と判定されたときには前記仮見積価格に応じて決定される幅を持たない金額を前記中古品を査定せずに引き取る確定価格とし該確定価格を前記中古品の見積価格として設定するステップと、

(d) 前記サーバコンピュータが、前記見積価格を含む見積情報を前記ユーザに送信するステップと

を含むものである。

【0017】

この中古品見積方法では、ユーザコンピュータから中古品の見積要求とその中古品の見積に必要な見積必要情報とを受信したとき、その中古品の仮見積価格を

見積必要情報に基づいて設定し、この仮見積価格に基づいて中古品の査定が必要か否かを判定する。そして、査定が不要と判定されたときには、仮見積価格に応じて決定される幅を持たない金額を中古品を査定せずに引き取る確定価格としその確定価格を中古品の見積価格とし、その見積価格を含む見積情報をユーザに送信する。このように、中古品を査定せずに確定価格で引き取る場合であっても、その確定価格は仮見積価格に応じてつまり中古品の価値に応じて決定されるため、ユーザに不満が残りにくい。なお、本発明におけるサーバコンピュータは、1台ですべての手順を実行してもよいし、複数台で手順を分担して実行してもよい。

【0018】

本発明の第3は、上述した中古品見積方法の各ステップをサーバコンピュータに実行させるためのプログラムである。このプログラムは、コンピュータが読み取り可能な記録媒体（例えばハードディスク、ROM、FD、CD、DVDなど）に記録されていてもよいし、伝送媒体（インターネットやLANなどの通信網）を介してあるコンピュータから別のコンピュータへ配信されてもよいし、その他どのような形で授受されてもよい。このプログラムをサーバコンピュータに実行させれば、サーバコンピュータは上述した中古品見積方法の各ステップを実行するため、上述した中古品見積方法と同様の作用効果と同様の作用効果が得られる。なお、本発明におけるサーバコンピュータは、1台ですべての手順を実行してもよいし、複数台で手順を分担して実行してもよい。

【0019】

【発明の実施の形態】

次に、本発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。図1は本実施形態の中古品見積システム10の概略構成を表す説明図、図2はデータベースサーバのデータ記憶装置に記憶された各種データベースの説明図である。

【0020】

本実施形態の中古品見積システム10は、ウェブサーバ12と、データベースサーバ14とで構成され、それぞれネットワークケーブル18によって通信可能に接続されている。

【 0 0 2 1 】

ウェブサーバ 1 2 は、ユーザが所有するパーソナルコンピュータの中古品を引き取る際の見積価格を提示する中古品見積サイトを開設するサーバである。このウェブサーバ 1 2 は、インターネット 2 0 を介して接続されたユーザコンピュータ 4 0 の要求窓口となるサーバであり、ユーザコンピュータ 4 0 から受信した要求内容に応じて自ら応答内容を作成してユーザコンピュータ 4 0 へ送信したり、ユーザコンピュータ 4 0 から受信した見積必要情報をデータベースサーバ 1 4 に渡してデータベースサーバ 1 4 に買取見積価格を演算させその演算結果を受け取りその演算結果から応答内容を作成してユーザコンピュータ 4 0 へ送信したりする機能などを有している。なお、見積必要情報とは、パーソナルコンピュータの中古品を構成する構成部品の種類や性能などに関する情報であるが、詳しくは後述する。

【 0 0 2 2 】

データ記憶装置 1 6 は、データベースサーバ 1 4 に接続され、図 2 に示すように、パーソナルコンピュータの構成部品の部品名と種類と価格とをそれぞれ対応付けた部品価格テーブルを記憶している。パーソナルコンピュータの構成部品につき、部品名としては CPU、メモリ、HDD、FDD、CD-ROM、LAN カード、マニュアル、梱包箱などがあり、このうち、CPU はプロセッサ名とクロック周波数によって種類が決められその種類ごとに価格が決められており、メモリや HDD は容量によって種類が決められその種類ごとに価格が決められている。なお、図示しないが、CD-ROM は機能（DVD の読み取り可とか書き込み可など）によって種類が決められその種類ごとに価格が決められ、FDD や LAN カードやマニュアルや梱包箱は種類の代わりに有か無に対応して価格が決められている。

【 0 0 2 3 】

データベースサーバ 1 4 は、データ記憶装置 1 6 に接続され、ユーザコンピュータ 4 0 からウェブサーバ 1 2 を経由して受信したパーソナルコンピュータの見積必要情報に基づいてデータ記憶装置 1 6 を検索し、各構成部品の中古価格の総額を買取見積価格の最低値 P A m i n として演算し、ウェブサーバ 1 2 へ渡す機

能などを有している。

【 0 0 2 4 】

ユーザコンピュータ 4 0 は、個人又は法人が使用する周知の汎用パーソナルコンピュータであり、インストールされたウェブブラウザによりインターネット 2 0 を介してウェブサーバ 1 2 が開設する中古品見積サイトにアクセス可能である。また、ユーザコンピュータ 4 0 は、種々の画面情報をディスプレイ 4 2 に表示する。

【 0 0 2 5 】

次に、本実施形態の中古品見積システム 1 0 の動作について説明する。図 3 は、ウェブサーバ 1 2 とデータベースサーバ 1 4 とユーザコンピュータ 4 0 の通信の様子を時系列的に表した説明図である。

【 0 0 2 6 】

まず、ユーザがユーザコンピュータ 4 0 のウェブブラウザを立ち上げてウェブサーバ 1 2 が開設する中古品見積サイトの URL（ユニフォーム・リソース・ロケータ）を入力する。すると、ユーザコンピュータ 4 0 は、中古品見積サイトのトップページの取得要求をインターネット 2 0 を介してウェブサーバ 1 2 へ送信する（ステップ S 1 0 0）。これを受信したウェブサーバ 1 2 は、中古品見積サイトのトップページ画面をインターネット 2 0 を介してユーザコンピュータ 4 0 へ送信し（ステップ S 1 1 0）、これを受信したユーザコンピュータ 4 0 は図示しないトップページ画面をディスプレイ 4 2 に表示する。

【 0 0 2 7 】

次いで、ユーザは、図示しないトップページ画面に設けられている見積要求ボタンをクリックする。すると、ユーザコンピュータ 4 0 は、見積要求をインターネット 2 0 を介してウェブサーバ 1 2 へ送信する（ステップ S 1 2 0）。これを受信したウェブサーバ 1 2 は、見積必要情報入力画面をインターネット 2 0 を介してユーザコンピュータ 4 0 へ送信し（ステップ S 1 3 0）、これを受信したユーザコンピュータ 4 0 は、見積必要情報入力画面をディスプレイ 4 2 に表示する。ここで、見積必要情報とは、パーソナルコンピュータの中古品の見積に必要な情報であり、具体的にはパーソナルコンピュータの構成部品に関する情報である

。図4は見積必要情報入力画面の一例である。ここでは、CPUについてはプロセッサ名とクロック周波数、メモリやHDDについては容量、CD-ROMについては機能（DVDの読み取り可とか書き込み可など）、FDDやLANカードやマニュアルや梱包箱についてはその有無を、プルダウンメニューによって選択し入力する。

【0028】

次いで、ユーザは、見積必要情報入力画面の各構成部品に関する情報を入力し、同画面に設けられた「OK」ボタン（図4参照）をクリックする。すると、ユーザコンピュータ40は、見積必要情報をインターネット20を介してウェブサーバ12へ送信する（ステップS140）。これを受信したウェブサーバ12は、データベースサーバ14に対して見積必要情報と共に買取見積価格の要求信号を送信する（ステップS150）。すると、これを受信したデータベースサーバ14は、見積必要情報に基づいてデータ記憶装置16に記憶された部品価格テーブル（図2参照）を参照して買取見積価格の最低値PAmi nを算出する。具体的には、CPUのプロセッサ名とクロック周波数に対応付けられた価格、メモリの容量に対応付けられた価格、HDDの容量に対応付けられた価格などを図2に例示した部品価格テーブルから読み出し、数1式に示すように、これらの部品価格の総額を買取見積価格の最低値PAmi nとして算出する。

【0029】

【数1】

$$PAmi n = \Sigma (\text{部品価格})$$

【0030】

このようにして買取見積価格の最低値PAmi nを算出したあと、データベースサーバ14は、その買取見積価格の最低値PAmi nをウェブサーバ12へ送信する（ステップS160）。すると、これを受信したウェブサーバ12は、図5に示す見積画面作成処理ルーチンを実行する。即ち、ウェブサーバ12は、まず、データベースサーバ14から受け取った買取見積価格の最低値PAmi nに基づいて、買取見積価格の最高値PAm a xや下取見積価格の最低値PBmi n・最高値PBm a xを算出する（ステップ300）。各値を求める算出式の一例

を数2式に示す。

【0031】

【数2】

$$P A_{\max} = P A_{\min} \times k$$

$$P B_{\min} = P A_{\min} + \alpha$$

$$P B_{\max} = P B_{\min} \times k'$$

(但し、 $k > 1$, $k' > 1$, $\alpha > 0$)

【0032】

続いて、買取見積価格の最低値 $P A_{\min}$ が閾値 $P A_1$ を越えているか否かを判定する (ステップ S 302)。この閾値 $P A_1$ は、買取見積価格の最低値 $P A_{\min}$ がこの閾値 $P A_1$ を越えるときには中古コンピュータの査定を行った上で買取価格を決定しこの閾値 $P A_1$ 以下のときには中古コンピュータの査定を行わずに買取価格を決定する値、つまり査定要否判定値として設定されている。そして、 $P A_{\min}$ が $P A_1$ を越えているときには、買取価格を決定する際に査定を行うことを示すために買取査定フラグ $F A$ に値 1 をセットすると共に買取見積価格として最低値 $P A_{\min}$ から最高値 $P A_{\max}$ という幅を持たせた金額をセットする (ステップ S 304)。この場合、買取価格は中古コンピュータの査定を行ったうえで最低値 $P A_{\min}$ から最高値 $P A_{\max}$ までの範囲内に決定されることになる。

【0033】

一方、ステップ S 302 で買取見積価格の最低値 $P A_{\min}$ が閾値 $P A_1$ 以下だったときには、買取見積価格の最低値 $P A_{\min}$ が閾値 $P A_2$ を越えているか否かを判定する (ステップ S 306)。この閾値 $P A_2$ は、閾値 $P A_1$ より小さい値であり、買取見積価格の最低値 $P A_{\min}$ の多寡を判定する多寡判定値として設定されている。そして、 $P A_{\min}$ が $P A_2$ を越えているときには、買取価格を決定する際に査定を行わないことを示すために買取査定フラグ $F A$ に値 0 をセットすると共に買取見積価格として最低値 $P A_{\min}$ をセットする (ステップ S 308)。この場合、買取価格は最低値 $P A_{\min}$ に確定される。つまり、中古コンピュータを査定せずに引き取る際の価格としてこの最低値 $P A_{\min}$ が

確定価格として設定される。この最低値 P_{Amin} は、データベースサーバ 14 によって中古コンピュータの構成部品の部品価格の総額として算出されるため、中古コンピュータごとに異なる値となる。

【0034】

一方、ステップ S306 で買取見積価格の最低値 P_{Amin} が閾値 P_{A2} 以下だったときには、買取見積価格の最低値 P_{Amin} が閾値 P_{A3} を越えているか否かを判定する（ステップ S310）。この閾値 P_{A3} は、閾値 P_{A2} より小さい値であり、中古コンピュータを引き取る価値があるか否かを判定する引取要否判定値として設定されている。そして、 P_{Amin} が P_{A3} を越えているときには、買取価格を決定する際に査定を行わないことを示すために買取査定フラグ F_A に値 0 をセットすると共に買取見積価格として一定金額 P_{A2} （閾値 P_{A2} と同じ）をセットする（ステップ S312）。この場合、買取価格は一定金額 P_{A2} に確定される。つまり、中古コンピュータを査定せずに引き取る際の価格としてこの一定金額 P_{A2} が確定価格として設定される。この一定金額 P_{A2} は中古コンピュータの構成部品によらない一定値である。

【0035】

一方、ステップ S310 で買取見積価格の最低値 P_{Amin} が閾値 P_{A3} 以下だったときには、買取価格を決定する際に査定を行わないことを示すために買取査定フラグ F_A に値 0 をセットすると共に買取見積価格として値 0 をセットする（ステップ S314）。買取見積価格に値 0 がセットされているときには、今回の中古コンピュータの引取を拒否することを意味する。

【0036】

このようにステップ S304、S308、S312、S314 のいずれかで買取査定フラグ F_A 及び買取見積価格の設定が終了したあと、続いて下取見積価格の最低値 P_{Bmin} が閾値 P_{B1} を越えているか否かを判定する（ステップ S316）。この閾値 P_{B1} は、下取見積価格の最低値 P_{Bmin} がこの閾値 P_{B1} を越えるときには中古コンピュータの査定を行った上で下取価格を決定しこの閾値 P_{B1} 以下のときには中古コンピュータの査定を行わずに下取価格を決定する値、つまり査定要否判定値として設定されている。そして、 P_{Bmin} が P_{B1}

を越えているときには、下取価格を決定する際に査定を行うことを示すために下取査定フラグFBに値1をセットすると共に下取見積価格として最低値PBminから最高値PBmaxという幅を持たせた金額をセットする（ステップS318）。この場合、下取価格は中古コンピュータの査定を行ったうえで最低値PBminから最高値PBmaxまでの範囲内に決定されることになる。

【0037】

一方、ステップS316で下取見積価格の最低値PBminが閾値PB1以下だったときには、下取見積価格の最低値PBminが閾値PB2を越えているか否かを判定する（ステップS320）。この閾値PB2は、閾値PB1より小さい値であり、下取見積価格の最低値PBminの多寡を判定する多寡判定値として設定されている。そして、PBminがPB2を越えているときには、下取価格を決定する際に査定を行わないことを示すために下取査定フラグFBに値0をセットすると共に下取見積価格として最低値PBminをセットする（ステップS322）。この場合、下取価格は最低値PBminに確定される。つまり、中古コンピュータを査定せずに引き取る際の価格としてこの最低値PBminが確定価格として設定される。また、この最低値PBminは、データベースサーバ14によって中古コンピュータの構成部品の部品価格の総額として算出された買取見積価格の最低値P Aminを基にして算出されているため、中古コンピュータごとに異なる値となる。

【0038】

一方、ステップS320で下取見積価格の最低値PBminが閾値PB2以下だったときには、下取価格を決定する際に査定を行わないことを示すために下取査定フラグFBに値0をセットすると共に下取見積価格として一定金額PB2（閾値PB2と同じ）をセットする（ステップS324）。この場合、下取価格は一定金額PB2に確定される。つまり、中古コンピュータを査定せずに引き取る際の価格としてこの一定金額PB2が確定価格として設定される。また、この一定金額PB2は中古コンピュータの構成部品によらない一定値である。

【0039】

このようにステップS318、S322、S324のいずれかで下取査定フラ

グ F B 及び下取見積価格の設定が終了したあと、買取査定フラグ F A や下取査定フラグ F B や買取見積価格や下取見積価格の各設定値に基づいて見積画面を作成し（ステップ S 3 2 6）、このルーチンを終了する。なお、図 6 はステップ S 3 0 2 ～ステップ S 3 2 4 における各閾値 P A 1 ～ P A 3 と買取見積価格の設定値との関係や各閾値 P B 1, P B 2 と下取見積価格の設定値との関係を表す説明図である。次に、ステップ S 3 2 6 で作成される見積画面について幾つか具体例を挙げて説明する。

【 0 0 4 0 】

(1) $P A_{min} > P A 1$ $P B_{min} > P B 1$ のとき、

買取見積価格の最低値 $P A_{min}$ が閾値 $P A 1$ を越え且つ下取見積価格の最低値 $P B_{min}$ が閾値 $P B 1$ を越えているときには、図 7 に示すように、買取見積価格として最低値 $P A_{min}$ から最高値 $P A_{max}$ までの幅を持った金額を表示し、下取見積価格として最低値 $P B_{min}$ から最高値 $P B_{max}$ までの幅を持った金額を表示し、買取見積価格と下取見積価格の両方を提示することからこれらの違いを説明する説明文（図 7 の注意事項①参照）とこれらを選択するための「買取希望」ボタンと「下取希望」ボタンを表示し、買取・見積とも中古品の査定を行った上で買取価格・見積価格を決定することからその旨を説明する説明文（図 7 の注意事項②参照）を表示する見積画面を作成する。なお、図 7 の見積画面には、注意事項として、その他に正常に動作しない中古品は対象外になること（注意事項③参照）や、所有権の移転（注意事項④）についての説明が表示される。

【 0 0 4 1 】

(2) $P A 1 \geq P A_{min} > P A 2$ $P B_{min} > P B 1$ のとき

買取見積価格の最低値 $P A_{min}$ が閾値 $P A 1$ 以下で閾値 $P A 2$ を越え且つ下取見積価格の最低値 $P B_{min}$ が閾値 $P B 1$ を越えているときには、図 8 に示すように、買取見積価格として最低値 $P A_{min}$ （幅を持たない金額）を表示し、下取見積価格として最低値 $P B_{min}$ から最高値 $P B_{max}$ までの幅を持った金額を表示し、買取見積価格と下取見積価格の両方を提示することからこれらの違いを説明する説明文（図 8 の注意事項①参照）とこれらを選択するための「買取

希望」ボタンと「下取希望」ボタンを表示し、最終的な買取価格は買取見積価格のとおりであり確定しているが最終的な下取価格は中古品の査定を行った上で決定することの説明文（図 8 の注意事項②参照）を表示する見積画面を作成する。なお、図 8 の見積画面には、注意事項として、その他に正常に動作しない中古品は対象外になること（注意事項③参照）や、所有権の移転（注意事項④）についての説明が表示される。

【 0 0 4 2 】

(3) $PA2 \geq PAm_{in} > PA3$ $PB1 \geq PBm_{in} > PB2$ のとき

買取見積価格の最低値 PAm_{in} が閾値 $PA2$ 以下で閾値 $PA3$ を越え且つ下取見積価格の最低値 PBm_{in} が閾値 $PB1$ 以下で閾値 $PB2$ を越えているときには、図 9 に示すように、買取見積価格として一定金額 $PA2$ （ここでは¥1,000）を表示し、下取見積価格として最低値 PBm_{in} （幅を持たない金額）を表示し、買取見積価格と下取見積価格の両方を提示することからこれらの違いを説明する説明文（図 9 の注意事項①参照）とこれらを選択するための「買取希望」ボタンと「下取希望」ボタンを表示し、最終的な買取価格・下取価格は買取見積価格・下取見積価格のとおりであり確定していることの説明文（図 9 の注意事項②参照）を表示する見積画面を作成する。なお、図 9 の見積画面には、注意事項として、その他に正常に動作しない中古品は対象外になること（注意事項③参照）や、所有権の移転（注意事項④）についての説明が表示される。

【 0 0 4 3 】

(4) $PA3 \geq PAm_{in}$ $PB2 \geq PBm_{in}$ のとき

買取見積価格の最低値 PAm_{in} が閾値 $PA3$ 以下で且つ下取見積価格の最低値 PBm_{in} が閾値 $PB2$ 以下のときには、図 10 に示すように、買取時の引取が拒否されているため買取見積価格を表示せず、下取見積価格として一定金額 $PB2$ （ここでは¥3,000）を表示し、買取の対象にならないが下取の対象になる旨の説明文（図 10 の注意事項①参照）と「下取希望」ボタンを表示し、最終的な下取価格は買取見積価格・下取見積価格のとおりであり確定していることの説明文（図 10 の注意事項②参照）を表示する見積画面を作成する。なお、図 10 の見積画面には、注意事項として、その他に正常に動作しない中古品は対象

外になること（注意事項③参照）や、所有権の移転（注意事項④）についての説明が表示される。

【0044】

以上の見積画面作成処理ルーチンが終了したあと、図3に戻り、ウェブサーバ12は作成した見積画面をユーザコンピュータ40へ送信する（ステップS170）。これを受信したユーザコンピュータ40はディスプレイ42にその見積画面を表示する。ユーザはその見積画面に表示される内容を認識した上で、買取を希望する場合には「買取希望」ボタンをクリックし、下取を希望する場合には「下取希望」ボタンをクリックし、いずれも希望しない場合には「キャンセル」ボタンをクリックする。すると、ユーザコンピュータ40は、「買取希望」ボタンがクリックされたときには買取要求を、「下取希望」ボタンがクリックされたときには下取要求を、「キャンセル」ボタンがクリックされたときにはキャンセル要求をインターネット20を介してウェブサーバ12へ送信する（ステップS180）。すると、これを受信したウェブサーバ12は、受信した信号が買取要求だったときには中古コンピュータの買取に必要な情報を入力するための図示しない買取必要情報入力画面をユーザコンピュータ40へ送信し、受信した信号が下取希望だったときには新たに商品を購入することのできる図示しない商品購入サイトへユーザコンピュータ40を接続し、受信した信号がキャンセル要求だったときには図示しないトップページ画面をユーザコンピュータ40へ送信する（ステップS190）。なお、図10の見積画面の場合には「買取希望」ボタンが表示されないため、ユーザは「買取希望」ボタンをクリックすることはできない。

【0045】

ここで、本実施形態の構成要素と本発明の構成要素との対応関係を明らかにする。本実施形態のウェブサーバ12及びデータベースサーバ14が本発明の仮見積価格設定手段に相当し、買取見積価格の最低値P_{Amin}や下取見積価格の最低値P_{Bmin}が仮見積価格に相当する。また、ウェブサーバ12が査定要否判定手段、見積価格設定手段、見積画面送信手段及び引取要否判定手段に相当する。更に、本実施形態のステップS308で買取見積価格として設定される最低値P_{Amin}やステップS322で下取見積価格として設定される最低値P_{Bmin}

nが、本発明の仮見積価格に応じて決定される幅を持たない金額であり中古コンピュータを査定せずに引き取るときの確定価格に相当する。

【0046】

以上詳述した本実施形態の中古品見積システム10では、中古コンピュータを査定せずに確定価格で引き取る場合であっても、その確定価格は仮見積価格（買取見積価格の最低値PAm i nや下取見積価格の最低値PBm i n）に応じてつまり中古コンピュータの価値に応じて決定されるため、ユーザに不満が残りにくい。なお、本実施形態では仮見積価格に応じて決定される確定価格を仮見積価格と同額であるとした。

【0047】

また、本実施形態では、中古コンピュータを査定せずに確定価格で引き取る場合に、一律に中古コンピュータの価値にかかわらず確定価格を一定額にしてしまうのではなく、中古コンピュータの価値の多寡に応じて確定価格をその価値に応じた金額（幅を持たない額）とするかその価値にかかわらず一定額とするため、ユーザに不満が残りにくい。

【0048】

更に、中古コンピュータの価値が高いときにはその中古コンピュータの査定を前提として幅を持った金額（最低値から最高値まで）が提示されるため、査定結果が悪ければ幅を持った金額の下限値が引取価格となり査定結果が良ければ幅を持った金額の上限値が引取価格になることを考慮しつつ、その中古コンピュータ品を引き取ってもらうか否かを判断することができる。

【0049】

更にまた、見積画面に提示される買取下取価格及び下取見積価格は、買取に比べて下取が有利になるように設定されているため、ユーザは買取ではなく下取を選びやすくなり商品の購入を検討することが期待され、ひいてはユーザから中古コンピュータを引き取る機会を利用して商品購買意欲を喚び起こすことができる。特に、価値のない中古コンピュータについて買取の場合には引取を拒否するが下取の場合には引取を拒否しないため、ユーザは一層買取ではなく下取を選びやすくなる。

【0050】

なお、本発明は上述した実施形態に何等限定されるものではなく、種々の形態で実施し得ることはいうまでもない。

【0051】

例えば、上述した実施形態では、パーソナルコンピュータの各構成部品の価格を部品価格テーブルから読み出しその部品価格の総額を買取見積価格の最低値 $P_{Am i n}$ としたが、部品価格の総額を買取見積価格の最高値 $P_{A m a x}$ としこれを本発明の仮見積価格とし、この最高値 $P_{A m a x}$ に基づいて $P_{A m i n}$ 、 $P_{B m a x}$ 、 $P_{B m i n}$ を求めてもよいし、あるいは、部品価格の総額を下取見積価格の最低値 $P_{B m i n}$ としこれを本発明の仮見積価格とし、この最低値 $P_{B m i n}$ に基づいて $P_{A m a x}$ 、 $P_{A m i n}$ 、 $P_{B m a x}$ を求めてもよいし、あるいは、部品価格の総額を下取見積価格の最高値 $P_{B m a x}$ としこれを本発明の仮見積価格とし、この最高値 $P_{B m a x}$ に基づいて $P_{A m a x}$ 、 $P_{A m i n}$ 、 $P_{B m i n}$ を求めてもよい。なお、各値を求める場合には、下取見積価格の最低値 $P_{B m i n}$ から最高値 $P_{B m a x}$ までの価格帯が買取見積価格の最低値 $P_{A m i n}$ から最高値 $P_{A m a x}$ までの価格帯よりも高額になるように、部品価格の総額にオフセット価格 (>0) を足したり引いたりしてもよいし、部品価格の総額に1より大きい係数を乗じたり1より小さい係数を乗じたりしてもよいし、その他にどのような算出式を用いてもよい。

【0052】

また、上述した実施形態において、図5のステップS310、S312を省略してステップS306で買取見積価格の最低値 $P_{A m i n}$ が閾値 $P_{A 2}$ 以下のときにはステップS314に進んで引取を拒否してもよく、あるいは、ステップS320、S324を省略してステップS316で下取見積価格の最低値 $P_{B m i n}$ が閾値 $B 1$ 以下のときにはステップS322に進んで下取見積価格に $P_{B m i n}$ を設定してもよい。こうすれば、買取見積価格や下取見積価格が中古コンピュータの価値にかからわず一定金額となることがないため、ユーザに不満が残りにくい。

【0053】

更に、上述した実施形態の図5において中古コンピュータの査定が不要と判定され（ステップS302またはS316で否定判定）、更に仮見積価格が多寡判定値を越えている（ステップS306またはS320で肯定判定）ときには、仮見積価格に応じて決定される幅を持たない金額として買取見積価格の最低値 P_{Amin} や下取見積価格の最低値 P_{Bmin} を採用しこれを確定価格としたが、これらの最低値 P_{Amin} , P_{Bmin} とは別の金額を確定価格としてもよい。例えば、最低値と最高値との平均値を確定価格としてもよいし、最高値を確定価格としてもよいし、仮見積価格である見積価格の最低値と確定価格とを対応付けたテーブルを設け見積価格の最低値をこのテーブルに照らして確定価格を決定してもよい。

【0054】

更にまた、上述した実施形態の図5において中古コンピュータの査定が不要と判定され（ステップS302またはS316で否定判定）、更に仮見積価格が多寡判定値以下（ステップS306またはS320で否定判定）のときには、確定価格を一定金額である閾値 P_{A2} , P_{B2} としたが、閾値 P_{A2} , P_{B2} とは別の一定金額を採用してもよい。

【0055】

そしてまた、閾値 P_{A1} と閾値 P_{B1} とは同じ値であってもよいが、いずれか一方を大きくなるように設定してもよい。このとき、下取見積価格が買取見積価格よりも有利になるように設定してもよい。同様に、閾値 P_{A2} と閾値 P_{B2} とは同じ値であってもよいが、いずれか一方を大きくなるように設定してもよく、下取見積価格が買取見積価格よりも有利になるように設定してもよい。

【0056】

そして更に、上述した実施形態では、買取見積価格の最低値 P_{Amin} を部品価格テーブルから求めたあとの P_{Amin} に基づいて下取見積価格の最高値 P_{Bmin} を算出したが、各部品ごとに買取時の価格の最低値と下取時の価格の裁定値をテーブル化しておき、下取見積価格の最低値 P_{Bmin} も部品価格テーブルから求めてもよいし、更に各部品ごとに買取時の価格の最高値と下取時の価格の最高値をテーブル化しておき買取見積価格の最高値 P_{Amax} や下取見積価格

の最高値 P B m a x についても部品価格テーブルから求めてもよい。

【0057】

そして更また、上述した実施形態では、パーソナルコンピュータの中古品について説明したが、ディスプレイやプリンタやスキャナなどのパーソナルコンピュータの周辺機器の中古品や、コピー機、ファクシミリ装置、シュレッダなどのOA機器の中古品や、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、電子レンジなどの一般家電製品の中古品や、自動車、自動二輪車、自転車、ボートなどの乗り物の中古品や、ゴルフクラブ、テニスラケット、スキー板、スノーボードなどのスポーツ品の中古品や、マンション、一戸建てなどの中古物件など種々の中古品についても本発明を適用し、見積要求に応じて買取見積価格と下取見積価格とを提示してもよい。

【0058】

そのうえ、上述した実施形態では、中古品見積システム10をウェブサーバ12とデータベースサーバ14の2つのサーバで構成したが、データベースサーバ14の機能をウェブサーバ12に持たせることにより1つのサーバで構成してもよいし、あるいは、3つ以上のサーバで構成してもよい。

【図面の簡単な説明】

- 【図1】 中古品見積システムの概略構成を表す説明図である。
- 【図2】 データ記憶装置に記憶された部品価格テーブルである。
- 【図3】 通信の様子を時系列的に表した説明図である。
- 【図4】 見積必要情報入力画面の説明図である。
- 【図5】 見積画面作成処理ルーチンの説明図である。
- 【図6】 閾値と見積価格の設定値との関係を表す説明図である。
- 【図7】 見積画面の説明図である。
- 【図8】 見積画面の説明図である。
- 【図9】 見積画面の説明図である。
- 【図10】 見積画面の説明図である。

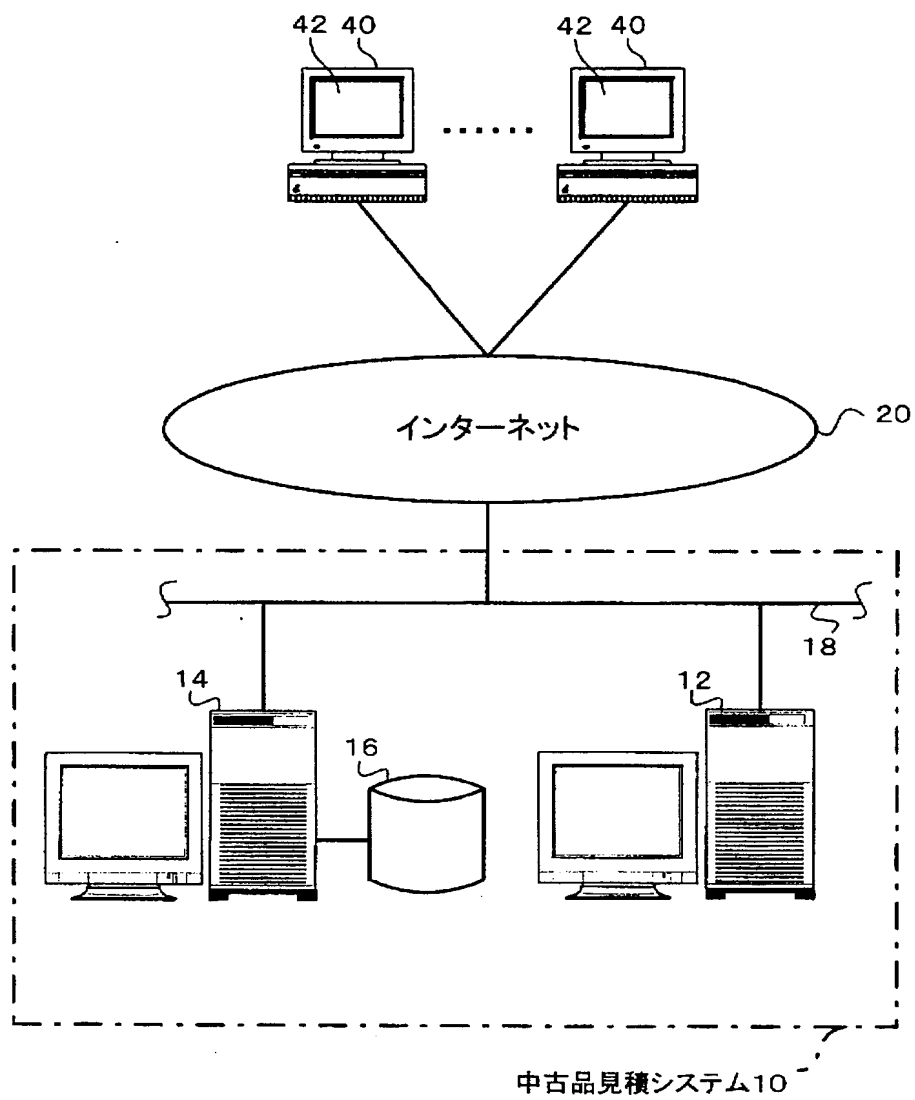
【符号の説明】

- 10 中古品見積システム、12 ウェブサーバ、14 データベースサーバ、
- 16 データ記憶装置、18 ネットワークケーブル、20 インターネット、

4 0 ユーザコンピュータ、4 2 ディスプレイ。

【書類名】 図面

【図 1】

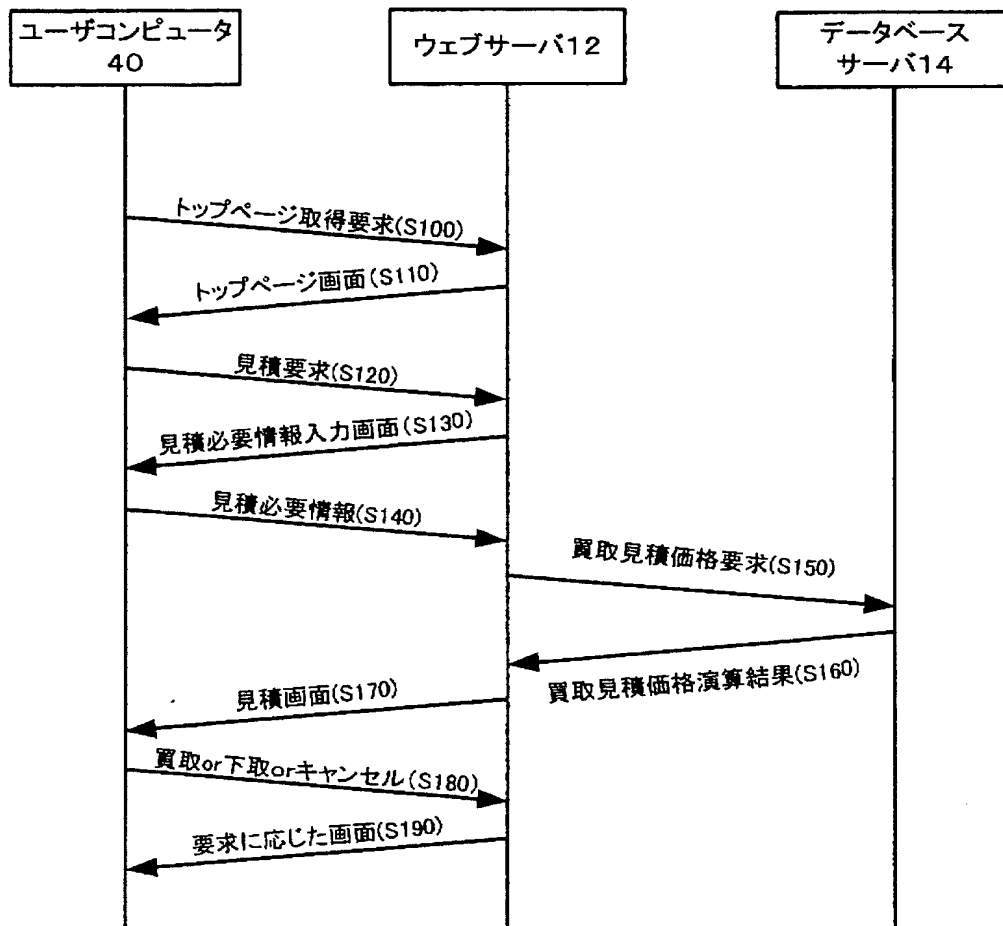


【図 2】

部品	種類	価格
CPU	Pentium166MHz以下	¥〇〇〇〇
	Pentium2 300MHz以下	¥〇〇△△
	Pentium2 450MHz以下	¥△△△△
	・ ・ ・	・ ・ ・
メモリ	なし	¥ 〇
	64MB以下	¥□□□
	128MB以下	¥□□△
	・ ・ ・	・ ・ ・
HDD	なし	¥ 〇
	10GB以下	¥×××
	40GB以下	¥××△
	・ ・ ・	・ ・ ・

※)Pentiumはインテル社の登録商標

【図 3】



【図 4】

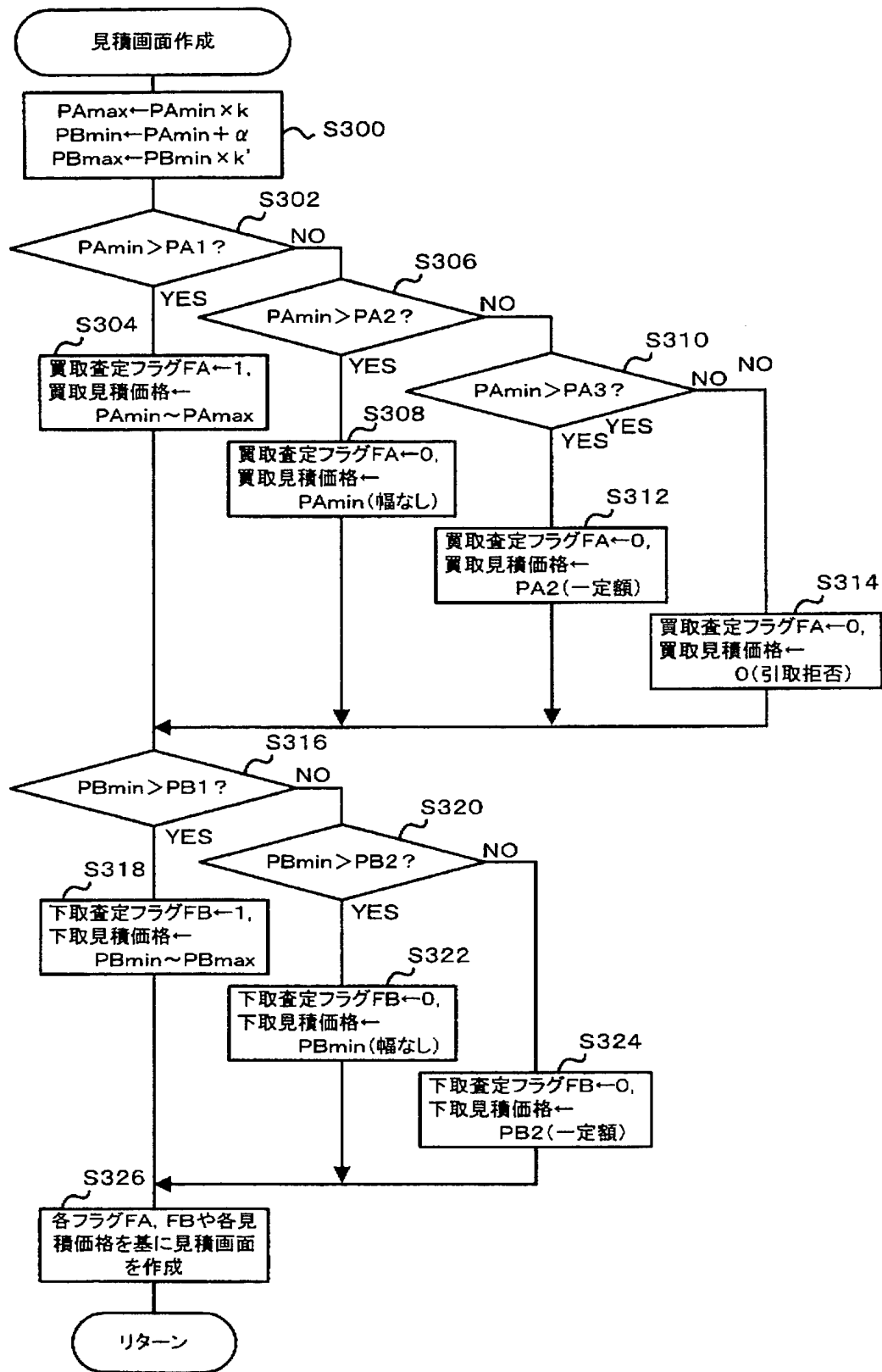
見積必要情報入力画面

パーソナルコンピュータの構成を入力してください。

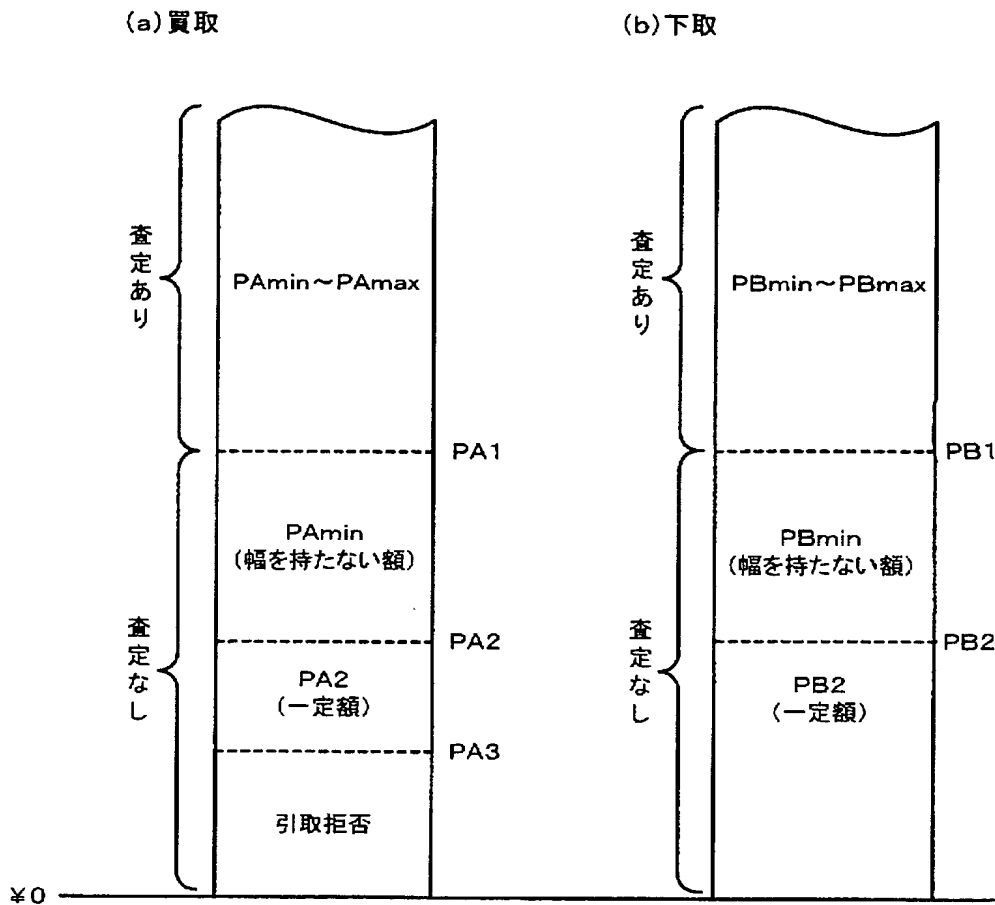
CPU	<input type="text"/>	▼
メモリ	<input type="text"/>	▼
HDD	<input type="text"/>	▼
CD-ROM	<input type="text"/>	▼
FD	<input type="text"/>	▼
LANカード	<input type="text"/>	▼
マニュアル	<input type="text"/>	▼
梱包箱	<input type="text"/>	▼

OK

【図 5】



【図 6】



【図 7】

見積画面

今回のパーソナルコンピュータの見積価格は以下のとおりです。

買取見積価格

最低値 ¥25,000～最高値 ¥35,000

下取見積価格

最低値 ¥30,000～最高値 ¥40,000

※注意事項

- ①買取見積価格は新たな商品の購入を伴わない場合の見積価格、下取見積価格は新たな商品の購入を伴う場合の見積価格です。
- ②最終的な買取価格や下取価格はシステム側に中古品が到着後査定を行った上で最低見積価格から最高見積価格までの範囲内で決定されます。
- ③正常に動作しない中古品は買取・下取の対象外になります。
- ④中古品の所有権はシステム側に中古品が到着した時点でシステム側に移転されます。

買取希望

下取希望

キャンセル

【図 8】

見積画面

今回のパーソナルコンピュータの見積価格は以下のとおりです。

買取見積価格

確定価格 ¥2,000

下取見積価格

最低値 ¥5,000～最高値 ¥10,000

※注意事項

- ① 買取見積価格は新たな商品の購入を伴わない場合の見積価格、下取見積価格は新たな商品の購入を伴う場合の見積価格です。
- ② 最終的な買取価格は確定価格のとおりであり査定は行いません。最終的な下取価格はシステム側に中古品が到着後査定を行った上で最低値ら最高値での範囲内で決定されます。
- ③ 正常に動作しない中古品は下取の対象外になります。
- ④ 中古品の所有権はシステム側に中古品が到着した時点でシステム側に移転されます。

買取希望

下取希望

キャンセル

【図 9】

見積画面

今回のパーソナルコンピュータの見積価格は以下のとおりです。

買取見積価格

確定価格 ¥1,000

下取見積価格

確定価格 ¥4,500

※注意事項

①買取見積価格は新たな商品の購入を伴わない場合の見積価格、下取見積価格は新たな商品の購入を伴う場合の見積価格です。

②最終的な買取価格や下取価格は確定価格のとおりであり査定は行いません。

③正常に動作しない中古品は下取の対象外になります。

④中古品の所有権はシステム側に中古品が到着した時点でシステム側に移転されます。

買取希望

下取希望

キャンセル

【図 10】

見積画面

今回のパーソナルコンピュータの見積価格は以下のとおりです。

下取見積価格 ￥3,000

※注意事項

- ① 今回の中古品は低価値のため新たな商品の購入を伴わない買取の対象にはなりませんが、新たな商品の購入を伴う下取の対象にはなります。
- ② 最終的な下取価格は確定価格の通りであり査定は行いません。
- ③ 正常に動作しない中古品は下取の対象外になります。
- ④ 中古品の所有権はシステム側に中古品が到着した時点でシステム側に移転されます。

下取希望

キャンセル

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 中古品を査定せずに確定価格で引き取る場合であってもユーザに不満が残りにくい。

【解決手段】 ウェブサーバは、買取見積価格の最低値 $P_{Am i n}$ ・最高値 $P_{A m a x}$ を設定し(S300)、 $P_{A m i n}$ が閾値 $P A 1$ を越えているか否かを判定し(S302)、 $P_{A m i n}$ が閾値 $P A 1$ を越えているときには、買取価格を決定する際に査定を行うことを示すためにフラグ $F A$ に値 1 をセットすると共に買取見積価格として最低値 $P_{A m i n}$ から最高値 $P_{A m a x}$ という幅を持たせた金額をセットする(S304)。買取見積価格の最低値 $P_{A m i n}$ が閾値 $P A 1$ 以下だったときには、買取価格を決定する際に査定を行わないことを示すためにフラグ $F A$ に値 0 をセットすると共に買取見積価格として最低値 $P_{A m i n}$ （中古品の構成部品によって異なる値となる）をセットする(S308)。

【選択図】 図 5

特願 2 0 0 2 - 2 8 6 0 0 2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 2 3 6 9]

1 . 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 2 0 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都新宿区西新宿 2 丁目 4 番 1 号

氏 名

セイコーエプソン株式会社